

効果的な漢字の指導

— 協働学習による非漢字圏初級学習者への漢字の指導 —

池 原 明 子

要 旨

日本語学習者に対する文字の指導は、仮名から漢字へと進むのが通常の指導のプロセスであるが、非漢字圏学習者の中には漢字の習得に初級の段階から仮名の習得時にはなかった困難や難しさを感じる学生がいる。それは漢字が形・音・義の3要素を備え、文字であると同時に意味を持つ単位体であるという特性を備えているせいでもある。さらに読み方も多様で、複雑であるために学習者にとっては習得する際に負担が大きい。学習者のその負担感を軽減し、学習者が困難を感じている記憶の保持の助けとなる指導の方法として、協力しながら理解を構築していく教室活動、協働学習の方法を2010年から取り入れ、その2年間の成果を分析してきた。今回、2012年9月来日の学習者、2013年9月来日の学習者を対象に2回に渡って調査を行った。2回の学習者間のやりとりの文字化資料、学習者へのインタビュー資料、アンケートの分析から、協働学習が自律的な学習を促していることが推測された。学習者の満足度も高く、毎回のテスト結果も平均点の上昇がみられた。現在まで、文字の指導に協働学習を取り入れた成果報告は数少なく、特に漢字の指導に対する協働学習の導入の例は数件しかないが、この実践によって、1つの成果を得たと考える。今後さらに実践を重ね実証していきたいと考えている。

[キーワード] 漢字学習、初級学習者、非漢字圏学習者、協働学習、
記憶の保持、自律学習、チーム・ティーチング

1 研究の背景と目的

日本経済大学、英国交換留学生を対象に2010年9月から仮名の学習に学習者同士が協力し、理解を構築していく教室活動、協働学習（Peer Learning）

（以下 PL）を取り入れた結果、仮名の習得率が上がり、書き方の正確度もまし、学習者の満足度も高かった。このことにより、2011年から、仮名の学習後も継続的に漢字の指導に、協働学習（PL）を取り入れた。その結果、学習者同士は漢字の書き方、読み方、覚え方、記憶の方法など、互いにペア、又はグループで各自の知識、方略を交換し、学び合うことで、従来の教師主導の漢字指導の際に必ず出てくる漢字嫌いが減り、各課の小テストも全員が90%を維持できるようになった。今回は JSAA（オーストラリア日本研究学会）で発表した、2012年度の学習者（9月から翌年6月までの1年間）のデータに加えて、1013年度の学習者（9月から12月、3か月）のデータ分析を行い、報告する。

日本語学習者に対する文字の指導は、通常仮名の指導から漢字の導入へと進む。非漢字圏学習者の中には漢字の習得に際して仮名の習得時にはなかった困難や難しさを感じ、日本語学習から脱落していく学習者がいる。それは漢字が形・音・義の3要素を備え、文字であると同時に意味を持つ単位体であるという特性を備えているせいであり、読み方も多様で複雑であるために学習者にとっては習得に際して負担が大きい。

更に時間的制約等の理由から、教師が教科書に出てくる漢字を紹介、練習し、テストで、定着を図るといふ、教師主導の教授法で、漢字学習の大部分が学習者の自学自習に委ねられることが多かったため、本来、論理的に記憶していくことから、漢字の定着、応用につながり、学習意欲を刺激していくものが、学習者によっては意味もなく覚えることにもなり、そのことが、漢

字嫌いを作り出す一つの要因となっていた。その一方、漢字学習に興味を示し、漢字学習を進めていく学習者もいる。本稿は、前回、2012年度学習者を対象行ったデータ分析結果によれば、協働学習（Peer Learning）を導入することで漢字の習得に大きな成果が得られたが、2013年度学習者においても同様の成果が得られるかを、継続して調査・検証し、報告するものである。

更に、前回までPLによる漢字授業を担当したのは1人（筆者）のみであったが、2013年度学習者に於いては、担当者3人、筆者+他2人の教師のチーム・ティーチングでおこなった。

2 先行研究

漢字教授法に関する研究は有山優樹他の漢字を学習者の日常生活や日本語学習において必要とされる場面でまとめ、その文脈の中で、情報を得たり、運用したりできることを目指し、学習者の漢字学習ストラテジーを、インターアクションを通じて、学習者と教師、学習者同士が共有するという、インターアクションによる、漢字学習（2008日本語教育学会秋季大会予稿集）、平塚真里・副田恵理子の漢字辞書の使用能力を高めることで漢字の運用能力を高める（2005日本語教育125号）、清水百合・加納千恵子の学習者の漢字学習の自習にCAIを利用し、成果を得たもの（1992日本語教育78号）、川口儀一のコミュニカティブ・アプローチによる漢字指導（1993日本語教育80号）、谷田部由木の認知心理学的な観点から非漢字圏理系学習者のための効果的な漢字指導（2007日本語教育学会秋季大会予稿集）など多数あるが、特に、豊田悦子は漢字学習者に行った調査結果で、学習者が最も難しいと感じるのは記憶の保持であり、豊田は初級から自律学習を目指した漢字指導が不可欠であると提案している。（1995日本語教育85号）

今回調査対象とした2012年度、2013年度学習者はいずれも英語圏の交換留学生（学習期間、約10カ月、滞在期間、1年）で、全員、非漢字圏学習者である。漢字学習を始めた段階では漢字能力はほぼ全員が0で出発するが、4

年間学部で学習する学部の学生と比較すると、短い滞在期間のせいもあるのか、学習が進む段階で、6カ月もすると、漢字学習に興味を無くす学習者が必ず2～3人出てくる。が、その一方で、漢字に強い興味を持つ学習者も2～3人現われる。この両者が情報を交換し、刺激し合い、知識や方略を学び合い、自己の文字習得を見直し、自律的に学習できるようになることで、漢字学習を有効に進めていくことができるであろうと思われた。

さらに、漢字学習以前の、PLによる仮名学習で学習者の自律的な文字学習が進み、文字、筆順の正確さに対する認識も増したことから、漢字学習にも、継続して、スタートの段階から、このPLを導入することで、漢字の字形、読み方、学習者が最も困難であると答えている記憶の保持にも有効に働き、学習者全員が漢字学習に自律的に参加していくのではないかと考えた。

本稿では2回に渡る、PL導入による、漢字指導の過程を比較検討しながら、その過程で行った、アンケート、インタビューを分析し、その成果と問題点について報告を行う。

3 実践の概要

3-1 活動の目的

2010年から仮名学習にPLを取り入れたことで、学習者の自律的な学習を促し、教師主導の教授法より、学習者の満足度、定着度が高かったことから、学習者にとって、習得に困難度が高い、漢字学習にもPLを取り入れることは、有効に働き、成果をあげるのではないかと考えた。

本稿は2012年9月、翌2013年9月に来日した、本校のケンブリッジ大学、オックスフォード大学（イギリス）からの交換留学生の日本語クラスにおける漢字学習時のPLの会話データ、文字データ、学習者間のやりとり、提出物、小テスト、漢字学習終了後のアンケート、インタビュー等を分析し、2012年度、2013年度の2回に渡る、漢字学習に於いて、同様の学習効果が得られるかを検討し、考察したものである。

3-2 参加学習者

2012年9月来日の学習者 2013年7月末帰国

学習者 10人（すべて英語圏）

国 籍 イギリス

男女比：男性8人、女性2人 年 齢：21～23歳

2012年度日本語クラス 使用言語：英語

→ 既習言語：フランス語、ドイツ語、スペイン語、
中国語

日本語能力：0 初級（日本語学習の経験なし）

文字→仮名の知識0（内1人は中国語の学習経験
があり、漢字について中国
語からの知識が少しあっ
た。）

PLの知識：ある 3人、ない 7人

PLの経験：全員なし

* Basic 漢字ⅠⅡ終了、Intermediate 漢字Ⅰ3課まで。

2013年9月来日の学習者 現在学習中、5ヶ月目

学習者 7人

国 籍：イギリス6人、ルーマニア1人、

母 語：英語・ルーマニア語

男女比：男性2人、女性5人 年 齢：21～23歳

2013年度日本語クラス 使用言語：英語

→ 既習言語：フランス語、ドイツ語、イタリア語、
スペイン語、アラビア語

日本語能力：0 初級（日本語学習の経験なし）

文字→仮名の知識0

PLの知識：ある 1人、ない 6人

PLの経験：全員なし

*Basic 漢字 I 16課まで。

2012年度生10名（イギリス）は、全員、母語は英語。過去に於いて全く日本語の学習経験がない、0初級レベル。全員、仮名文字についての知識はなかったが、内1人は中国語の学習経験があり、漢字は中国語からの知識が少しあった。

2013年度生は国籍、イギリス、ルーマニアの2カ国で、母語は英語、ルーマニア語。過去に於いて全く日本語の学習経験がない、0初級レベルで、仮名・漢字いずれについても、全く学習経験も知識もなかった。

全員がケンブリッ大学、オックスフォード大学の学部卒業生、または修士課程の学生で学習者間の使用言語は英語である。

PLは2012年度、学習者の母語である英語で行ったが、2013年度は3人の担当教師による、チーム・ティーチングで行ったため、1人の教師が主に英語で、他の2人の教師は主に日本語で行った。

3-3 手続き・導入方法

Basic 漢字 Book I

ユニット2-1 「漢字の書き方」：新出漢字の導入（文字の形・筆順・音・音訓読み・言葉の意味など）は教師主導でおこなった。

書き練習の段階から PL を導入。

学習者は各自、新出漢字を書き、以後、文字の形・筆順・音・音訓読み・言葉の意味などを PL で互いに確認、意見を交換し、間違いを訂正し合った。教師はその間、教室をまわり、ファシリテーターの役割を果たす。

ユニット1 漢字の話

学習者同士で漢字の字源・成り立ち・使い方・ルール・分

- 類法・語構成などを確認
- ユニット2-2 読み練習
学習者同士で漢字の読み・発音・言葉の意味・使い方・使われている場面・文の表す意味・内容を確認
- ユニット2-3 書き練習
学習者同士で漢字の形・筆順・語意・使い方・使われている場面・文の意味を確認。最終確認で板書する。
板書はペアから一人出て板書する。(板書する漢字はその課の漢字を中心に教師が口頭で指示)
- ユニット3 読み物
- ①学習者同士、一文ずつ、声を出して読む。
一人が読んでいる間、そのパートナーは発音・イントネーション・漢字の読みを確認、気がついたことがあれば助言する。一人が一文を読み終わったら、交替して、同じことをする。
- ②学習者同士で話し合いながら、ストーリーの内容確認。
- ③学習者同士で話し合いながら設問を解いていく。

知っていますか、できますか

学習者同士会話を通して問題の解答を考えていく。

復習 学習者同士で設問を解いて、確認していく。

Basic 漢字 Book II

Book IIから教室での作業、家での準備作業に分かれる。

準備作業：ユニット2-1「漢字の書き方」、ユニット2-2 読み練習

ユニット2-3 書き練習

学習者は家で前もってやっておく。

教室作業：ユニット2-1「漢字の書き方」、ユニット2-2読み練習、ユニット2-3書き練習

家でやってきたものをPLで話し合い確認、助言し、間違い等を訂正し合う。

ユニット1漢字の話、ユニット3読み物、知っていますか、できますか、復習

Book Iと同じように協働(PL)で学習していく。

Book Iでは教師主導で行った、新出漢字の導入(文字の形・筆順・音・音訓読み・言葉の意味など)も学習者が中心になり、教師はファシリテーターの役に徹し、教室内を回って助言を行う。確認のため、書き方、読み練習、書き練習、復習は回収してチェックする。返却後、学習者は返却されたものを再度、互いに話し合って検討する。

進度：

・Basic 漢字 Book I⇒3日で1課。

1日目→新出漢字導入、ユニット2-1「漢字の書き方」ユニット1漢字の話

2日目→ユニット2-2読み練習、ユニット2-3書き練習

3日目→ユニット3読み物、知っていますか、できますか、テスト

・Basic 漢字 Book II⇒2日で1課。

1日目→新出漢字導入、ユニット2-1「漢字の書き方」

ユニット1漢字の話、

ユニット2-2読み練習、ユニット2-3書き練習

2日目→ユニット3読み物、知っていますか、できますか、テスト

導入方法は最初の時間に教師による英語でのオリエンテーションを行い、PL の概念、学習の進め方、PL の学習の方法を再度確認し、PL で漢字学習もやっていくことができるか確認をした。同時に教師側のオリエンテーションも行い、共通概念を共有し、チーム・ティーチングで PL が効果的に行えるよう試みた。

PL 学習における使用言語は教師・学習者間の指示、コミュニケーション、学習者間の会話、やりとりを2012年度学習者は主に英語、2013年度学習者は日本語と英語で行った。

PL でのグループ分けは2人1組のペアで行い、メンバーは固定しなかった。

4 結果と考察

4-1 学生の評価

2012年度生は PL による漢字学習3ヶ月目の2012年12月と6ヶ月目の2013年3月にアンケートを行った。2013年度生は PL による漢字学習3ヶ月目、12月と5ヶ月目の2014年2月に行った。いずれの学習者も全員、漢字が好きで、もっと勉強していきたいと答え、漢字を知っていることは日常生活に便利で役に立つので漢字を学習すべきであると考えている。過去10年ほどの教師主導の漢字学習においては、漢字に興味を持たない学習者が必ずおり、学習者が日本語学習から脱落していく原因ともなっていた。2回に渡る調査結果で、学習者全員が漢字が好きだと認識するようになったことは PL による漢字学習の一つの成果だといえる。

PL による漢字学習については全員が教師主導よりは楽しく学べ、いい刺激になり、漢字を覚える方略などの知識を互いに、交換し合うことで、より効果的な学習ができたと答えている。特に2012年度の学習者は漢字学習で多くの学習者が困難を感じている記憶の保持に役に立ったという回答が多かった。2012年度生は PL の導入は、書き、読み、発音、筆順などに有効に機能

したと認識している学習者が多かったが、書きに関しては有効に機能しなかったと感じた学習者もあり、書きのPLによる学習の有効性に対する認識は分かれたといえる。2013年度生はPLの導入は、書き、読み、発音、筆順などに有効に機能したと認識している学習者と有効に機能しなかったと認識する学習者に分かれた。以下、学生に行ったアンケートとその結果である。4-2のアンケートは2012年12月と、2013年12月に行ったが、この時点では、学習者の日本語能力が充分ではないため（日本語能力初級前半）、質問項目、回答ともに全文英語であり、ここに提示したのは日本語訳（筆者訳）である。4-3のアンケートは2013年3月、2014年2月に行い、この時点では、学習者は日本語で質問項目を十分理解できたので日本語になっている。但し、質問に対する回答・コメントは日本語、英語両方あったので、英語で書かれたものに関しては日本語訳を提示している。

4-2 データ資料・アンケートの分析

分析にはPL学習中の学習者間の会話データ、文字データ（提出物、小テスト等）、アンケート、インタビューなどの資料を使用した。

*記述は、各項目、2012年、2013年を左右並べて、比較対照し、違いが分かりやすいようにした。

*アンケートの回収率

2012年度生12月実施分、90%（10人中9人）

3月実施分、90%（10人中9人）

2013年度生12月実施分、2月実施分ともに、100%（7人中7人）
だった。

4-3 PLによる漢字学習に対する評価（質問項目は全文英語）

4-3-1-PLによる漢字学習は楽しかった？

2012年度生（回答者9人）

- ・はい → 9人
- ・いいえ → 0人
- 計 9人

2013年度生（回答者7人）

- ・はい → 7人
- ・いいえ → 0人
- 計 7人

コメント

2012年度生

- 相手の覚え方を知り、覚え方に役に立つ方法などを話し合うのは漢字の学習を容易にする。
- 一人で勉強するより、楽しいし、簡単に学べる。
- PLは時間をとる。

2013年度生

- グループで勉強するのは楽しい。
- ペアの学生が漢字を習うのに役にたつアイデアをくれた。ペアに説明するのは知識を確実なものにするのに役に立った。
- 教師主導より深く考えられるようになり、たくさん覚えられる。
- 全く新しいやり方で、ペアのアイデアを得て助けになった。
- タスクで難しいところをペアと話し合い、確認することで勉強になる。

4-3-2-PLは漢字学習にいい方法だと思いますか？

2012年度生（回答者9人）

- ・はい → 8人
- ・いいえ → 1人
- 計 9人

2013年度生（回答者7人）

- ・はい → 6人
- ・いいえ → 1人
- 計 7人

コメント

2012年度生

- 他の人と一緒に勉強するのは楽しいし、興味深い。
- 漢字は難しいし、繰り返すことが大切だからいい方法だと思う。
- いろいろの能力・弱点・強みがあるので、PLはこの力を分かち合うチャンスを与え、クラス全体が上達するようになる。
- 間違いを直し合うのは2人にとって役に立つ。
- 記憶を保つのにいい。
(記憶の保持)
- 自分でやる方がいいが、他の人の覚え方を知るの役に立つ。

2013年度生

- PLは目的意識を維持するのに大切。
- 漢字を習うのに互いにテストをしい、できるだけたくさん覚えるようにした。
- 漢字のいろいろな面の分析を通して、よりよく理解できる。考えを分かち合うのは漢字を分析するのに助けになる。
- 漢字の見方、学び方の新しい方法の助けになる。それはよりおもしろく楽しい。
- 自分でやる方がいい。

4-3-3-通常の教授法(教師主導)とPLとどちらが漢字学習にいい方法だと思いますか?

2012年度生

- a. 教師主導 → 1人
- b. PL → 8人
- 計 9人

2013年度生

- a. 教師主導 → 0人
- b. PL → 6人
- a + b → 1人
- 計 7人

コメント

2012年度生

- 他人のやり方を学び、漢字の正しい形などを教え合うのは楽しいし、役に立つ。
- 漢字を覚え合ったり、教え合ったりするのは、漢字を覚えるのに助けになるいい方法である。
- 教師主導で一方的に知識を与えるより、学習者はより積極的、活動的になる。
- 教師主導より、インタラクティブで自分の考えを話し合いで言わなければならない。
- 両方とも役に立つが、新しく漢字を習うときは教師主導がいいが、そのあとは PL がいい。

2013年度生

- ただ聞いているより PLの方が漢字をよく覚えられる。
- ペアの学び方を知り、ペアが知っている漢字を知るのは刺激になる。

4-3-4-書き・読み・聞き取り・発音・語彙をパートナーと協働して学ぶのは漢字学習に役に立つと思いますか？

2012年度生

- ・は い → 9人
- ・いいえ → 0人
- 計 9人

2013年度生

- ・は い → 6人
- ・いいえ → 1人
- 計 7人

コメント

2012年度生

- 他人の覚え方を知るの役に立つ。
- PL だといい刺激になる。
- 書き練習の最初の段階で互いにチェックするのは役に立つ。
- 漢字の理解にレベルがいろいろあるので、互いの知識を交換、説明するのは語彙を増やすのに役に立つ。

2013年度生

- 互いにテストし、覚える方法を考えた。
- お互いの間違いを直しあえた。
- 役にたった。
- 相手の意見を聞くのは覚えるのに役に立った。
- PL は受動的に習うよりいい。発音に関しては疑問。

4-3-5-漢字学習でパートナーと互いによく助け合いましたか？

2012年度生

- ・はい → 9人
- ・いいえ → 0人
- 計 9人

2013年度生

- ・はい → 5人
- ・いいえ → 2人
- 計 7人

コメント

2012年度生

- 漢字を一緒に読み、互いにその読みをチェック、フラッシュカード等も使ってチェック。
- 各々、1つの漢字に1つのストーリーを考え、交換し合う。
⇒記憶の保持に役に立つから。
- 互いにテストし合ってチェック。
- 漢字の覚え方、練習するときの互いの漢字について、コメントし合う。

2013年度生

- 漢字を書くのに一緒に似た構造を見つけた。
- 互いにテストし合った。これは漢字を学び、まちがいをチェックするのに役に立つ。
- 漢字の部首などの意味を一緒に考えたことは覚えるのに役に立った。
- 記憶を助ける方法を見つけた。

4-3-6-漢字学習であなたはパートナーの役に立ったとおもいますか？

2012年度生

- ・は い → 8人
- ・いいえ → 0人
- * 1人 ⇒ 5番のQと同
- 計 9人

2013年度生

- ・は い → 5人
- ・いいえ → 1人
- * 1人 ⇒ 5番のQと同
- 計 7人

コメント

2012年度生

- 互いに間違いを直し、覚え方な
ど分かち合って役に立った。

2013年度生

- 生産的にできたと思う。

4-3-7-PLで漢字を十分に学べたと思いますか？

2012年度生

- a. は い → 7人
- b. いいえ → 0人
- * a b の中間 2人
- 計 9人

2013年度生

- a. は い → 6人
- b. いいえ → 1人
- 計 7人

コメント

2012年度生

- 互いに間違いを直し、覚え方な
ど分かち合って役に立った。

2013年度生

4-3-7① どの分野で PL がうまく機能したと思いますか？（複数回答可）

2012年度生

- 1 書き → 4人
- 2 読み → 5人
- 3 筆順 → 2人
- 4 構造 → 1人
- 5 発音 → 5人*

2013年度生

- 1 書き → 2人
- 2 読み → 2人
- 3 筆順 → 2人
- 4 構造 → 3人
- 5 発音 → 2人*

4-3-7② どの分野で PL がうまく機能しなかったと思いますか？

（複数回答可）

2012年度生

- 1 書き → 3人
- 2 読み → 1人
- 3 筆順 → 0人
- 4 構造 → 1人
- 5 発音 → 0人*

2013年度生

- 1 書き → 1人
- 2 読み → 1人
- 3 筆順 → 0人
- 4 構造 → 2人
- 5 発音 → 1人*

4-3-8-PL による漢字学習についてのあなたの意見・コメント・サジェス
ション

2012年度生

- PL で教えてもらえてうれしい。
- PL は面白いし、習うのにいい方法だと思う。
- 教師主導でノートに書いて覚えるより、想像力を働かせて、それを話し合うのは大人の学習者には記憶、記憶の保持に効果的である。
- PL は役にたつ、面白い勉強方法。
- 教師主導と PL を組み合わせて、自律して学ぶのがいいと思う。
- 他の人の覚え方を知るのにはいい方法だが、書き練習などは自分で学ぶものだと思う。

2013年度生

- 部首を最初に習って、ペアで活動すると、後で漢字を簡単に覚えられていい。

4-4 漢字に関するアンケート（質問項目は全文日本語）

4-4-1-あなたは漢字が好きですか？

2012年度生

- ・は い → 7人
- ・いいえ → 0人
- a + b 2人
- 計 9人

2013年度生

- ・は い → 7人
- ・いいえ → 0人
- 計 7人

理 由

2012年度生

- 楽しいし、生活の役に立つ。
- 漢字は難しく、覚えるのに大変だが、いろいろの漢字を認識できるのは満足だ。
- 漢字を書くのが好きだ。
- 読解・聴解・語彙を増やすのに役に立つ。

2013年度生

- 新聞を読みたい。
- 日本語をちゃんと読めるのは楽しい。
- おもしろいし、きれいだ。
- 本を読むのに必要だと思うので。

4-4-2-漢字を知っていると役に立つと思いますか？

2012年度生

- ・は い → 9人
- ・いいえ → 0人
- 計 9人

2013年度生

- ・は い → 7人
- ・いいえ → 0人
- 計 7人

理由

2012年度生

－日本では漢字を知っていると便利。

(道路標識・メニュー・日本の友達にメッセージを書くな
ど)

－町に出たとき便利。

(普通ふり仮名がついていない
ので)

－旅行・買い物等知っていると、
とても役に立つ。

－漢字を書くのが好きだ。毎日の
生活で漢字を使うのが好き。

－早く日本語の本を読みたいから。

－役に立つが、難しい。

4-4-3－もっと漢字を勉強したいですか？

2012年度生

・はい → 6人

・いいえ → 0人

a + b 3人

計 9人

2013年度生

－街でよく漢字の表示をみるから。

－読み・書き、両方できるのがいい
と思うから。

－日本に住む以上、不可欠。特に旅
行や情報を得るとき。

2013年度生

・はい → 6人

・いいえ → 0人

計 7人

理由

2012年度生

- まだ習っていない役に立つ漢字がたくさんあるから。
- 漢字ができるようになるほど、日本語も分かるようになるから。
- 日本語の読解の力を伸ばしたいから。
- 漢字の組み合わせ、形、意味を知るのは楽しい。
- 話すことも学びたいが、漢字ももっと知りたい。
- 漢字を習うのは大切だが、興味を維持していくのは大変。

2013年度生

- 大切だと思うから。
- 読み、書きが上手になりたいから。
- 日本の文学を読みたいから。
- いろいろなことを理解したいから。

4-4-4-漢字の勉強はどうしていますか？

2012年度生

- カード（単語カード）を使う。
- 漢字の部首を覚える。
- 新しい漢字を習ったら、話を作って覚えやすくしている。
Eg. 座 ⇒ 广の中で人が2人（人人）（土）の上に座っている等。
- 板書・カード・漢字の本などを使って覚える。
- I Pat のカードを使う。
- 暇がある時いつでもカードを見て覚える。

2013年度生

- 日本語の文を読む。
- 英語の単語と対比しながら、漢字を書き、読みをテストする。
- クラス内で短時間で集中して覚える。
- PL でペアと協力して覚えやすくする。
家でも覚える。
- 書いて覚える、棒暗記する。

4-4-5- どうやったら漢字が上手になると思いますか？

2012年度生

- 毎日の練習。
- 漢字の部首を覚える。
- 新しい漢字を習ったら、話を作って、話で記憶を助け、記憶の保持に努める。
- すぐ忘れるから、習った漢字なるべく使うようにする。
(記憶の保持)
- 新しく習った漢字+前に習った漢字の復習と練習。
(記憶の保持)
- いつも練習していれば、覚えるのも楽だし、忘れない。
(記憶の保持)

2013年度生

- 日本語の文を読む。
- 英語の単語と対比しながら、漢字を書き、読みをテストする。
- たくさん練習する。
- 語彙を増やす。
- 今知っている漢字の読みと別の読みの繋がりなどを考える。
- 辞書を使ってでも、簡単な本をできるだけ速くたくさん読む。
- 何度も読む。
- 語彙ともに覚える。

4-4-6- 漢字はPLで友だちと助け合って勉強していますが、どうですか？

2012年度生

- より楽しいし、面白い。
- PLは楽しいし、役に立つ。
- 他の人のやり方を知り、自分に合った方法を見つけるのに役に立つ。

2013年度生

- いい。

PLは漢字の勉強にいい方法だと思いますか

2012年度生

- ・は い → 9人
- ・いいえ → 0人
- 計 9人

2013年度生

- ・は い → 7人
- ・いいえ → 0人
- 計 7人

どんなところがいいですか <いいところ>

2012年度生

- 教師主導で知識を一方的に与えられるより、自分達で考え、理解し、アイデアや知識を分かち合うことができるのは楽しいし、より役に立つ。
- 互いに学べるし、楽しい。
- 他人の漢字の覚えやすい方法などを知り、自分でも検討できる。
- とにかく面白い。

2013年度生

- 他人の人がやっていることを見て、刺激になり、もっと勉強しようという気持ちになる。
- 他人のやり方を学べる。

どんなところがよくないですか <よくないところ>

2012年度生

- 時々散漫になる。
- 時として時間がかかる。
- 予習をしていないと大変なときがある。

2013年度生

- 時々注意散漫になる。
- 時々教師のチェックが必要。
- 書き練習は家でした方がよい。

どうしたらもっとよくなるとおもいますか

2012年度生

- もっと想像力を駆使する。
- 自分でやる時間と、協働学習(PL)の時間を別々に設けてやる。

2013年度生

4-4-7-漢字のテストはどうですか？

2012年度生

a. い い → 6人
 b. よくない → 0人
 a + b 1人
 計 7人

2013年度生

a. い い → 7人
 b. よくない → 0人
 計 7人

理 由2012年度生

- テストはいいが週2回ぐらいがいい。それ以上だと大変。
- 習うのに時間が限られている方がいい。
- 漢字の力を伸ばし、マスターするのにいい。
- テストという少しプレッシャーがあった方が記憶に残ってよい。

2013年度生

- どのくらい覚えているか、できるかチェックするのに役に立つ。

4-5 結果

Basic 漢字 Book I では、新出漢字の導入のみは教師主導で行い、「漢字の話」から「読み物」「知っていますか・できますか」までを PL で行い、漢字学習の全過程を PL では行わなかった。Basic 漢字 Book II で、新出漢字導入も学習者中心に切り替え、PL で行った。

以下項目で成果をみていきたい。

〈書き〉(教師の観察・テスト結果・提出物から)

2012年度生、2013年度生、共に、形・止め・はね・各線の長短など、細かいところに注意が行き届き、教師主導のときよりも自己流の書き等が減り、正確さを意図する傾向が増した。

〈読み・発音〉

2012年度生、2013年度生、共に、学習者のアンケート結果にも見られるように、互いが検証し合うことで、発音・読みの正確さが増した。

〈筆順〉

アンケートによれば、多数の学習者が有効に機能したと認識しているが、PLによる、筆順チェックにあまり時間がとれなかったこともあり、板書の時点での教師による確認の際、PLが十分に機能していたと教師側からは確認できなかった。特に2013年度生の一部は筆順に対する認識があまりなかった。

〈意味の確認〉

学習者は互いの既習漢字の知識を活かして、知識を出し合い、情報を交換し合うことで、教師からの一方的な知識の授与ではなく、より創造的に学習を進めていった。2012年度生に引き続き、2013年度生でも成果がみられた。

4-6 考察

2012年度生、2013年度生、共にほぼ全員がアンケートでPLによる漢字学習が面白いと答え、もっと勉強したいと答えているのは、ペアの相手の学習者から新出漢字の覚え方の知識や方略が学べると同時に、自分自身の学習方法・知識を見直すきっかけになり、そのことで漢字学習が進み、その達成感が互いの知識・方略の情報交換の過程で記憶の保持を促し、漢字の習得が面白いと学習者に感じさせたと思われる。

教師主導の一方的な知識の受け手ではなく、PLによって、個々の漢字学習ストラテジーを、学習者同士、ファシリテーターである教師がインターアクションを通じて共有することで、学習者は主体的に学習に取り組み、自律的に学習を進めることができたといえる。

Basic 漢字 Book II を2012年度生は終了、2013年度生は現在、学習中であるが、Basic 漢字 Book II では進度も速くなり、準備作業にかなり時間がが

かるため、教室外での学習時間が増えるが、教師主導時にみられた家庭学習時の不十分さがなくなり、教室での協働学習（PL）が進んだ。これはペアを組み、協働して学習していくことが学習者の、仲間と助け合い、学習をより良く進めていきたいという気持ちを育て、さらには教室外での準備、学習過程が学習者の内省を促すことにも機能していたとみられる。

5 まとめと課題

文字学習としての仮名学習に引き続き、漢字学習に協働学習を取り入れたことで、学習者は、日本に来るまで、PLによる学習経験はなかったが、アンケート結果からも分かるように、来日後の各、2012年9月、2013年9月以降に導入した、PLによる仮名学習時の経験を活かし、各過程で教師主導の漢字学習よりは成果があがり、満足度も高かった。そのため、さらにBook IIに進んだ段階で学習者はより自律的に学習を進めていくことができた。2012年度生に引き続き、2013年度生においても、実践結果からはPLによる漢字学習が教師主導の漢字学習より、効果があることを実証できたといえるが、前回、2012年度生においては2つの課題が残った。

1つ目は漢字学習をPLで行っていく際の学習者を導く教師のファシリテーターとしての教師の役割のさらなる分析であり、2つ目は初級段階から、中級段階に移行するとき、母語+日本語、さらにはより多くの日本語を使用しての対話、ピアの活動へと移行させていく可能性を探ることであった。

1つ目に関しては、学習者の内省が意識して行われないうり、学習者の認識いかんでその効果は異なってくる。学習者が対話による内省を通して、自分自身の問題として学ぶ対象を捉えることが重要であり、漢字学習をPLで行っていく際の学習者を導く教師の役割は大きい。2012年度生では担当教師は1人であったが、2013年度生では大学のカリキュラム上の理由で、3人の教師が担当し、チーム・ティーチングで行った。そのため同じ条件での分析は不可能であった。学習者に行ったアンケート結果からは大きな差はなかつ

たが、前回の問題点が十分に解決されないまま、新たな課題を抱えることになった。担当教師間の共通概念の構築と、ファシリテーターとしての内省の共有が必要であり、更なる分析が必要である。

2つ目に関しては、2012年度生はピア、PLの活動が学習者の母語である英語で行われ、担当教師も英語でファシリテーターとしての役割果たしていたが、2013年度生では2人の教師は主に日本語で、1人の教師は英語と日本語で行った。いずれの場合も学習者間の言語は英語で行われ、問題の解決には至っていない。

今後は複数の教師が担当する場合の分析が必要だともわれ、次回の課題としたい。

教室活動としては、2012年度生、2013年度生共、漢字学習の全過程でPLによる指導は行わなかったので、今回の成果でPLによる漢字学習について全てを判断できないが、一つの参考資料とはなりえる。

*この論文は2013年JSAA オンラインに掲載した論文を加筆・修正したものである。

参考文献

- (1) 平塚真里・副田恵理子 (2005) 「漢字学習における漢字辞書使用の効果」『日本語教育 125号』 pp86-95
- (2) 清水百合・加納千恵子 (1992) 「CAIを利用した漢字学習」-授業における漢字学習と自学自習のメカニズム- 『日本語教育』 78 pp92-105
- (3) 池田玲子・館岡洋子 (2007) 『ピア・ラーニング入門：創造的な学びのデザインのために』 ひつじ書房
- (4) 川口儀一 (1993) 「コミュニケーション・アプローチによる漢字指導」『日本語教育 80号』 pp 15-27
- (5) 谷田部由木 (2007) 「非漢字系理系大学院留学生のための効果的な漢字指導」-認知心理学的な観点から- 『日本語教育学会秋季大会予稿集』 pp95-110
- (6) 豊田悦子 (1995) 「漢字学習に対する学習者の意識」『日本語教育 85号』 pp101-113
- (7) 玉村文朗 (1993) 「日本語における漢字」-その特質と教育- 『日本語教育 80号』 pp1-13
- (8) 高島俊夫 (平成 14) 『漢字と日本人』 文春新書

- (9) 尾中美代子 (2002) 「日本語学習者のための自律学習支援を考える」『日本語教育学秋季大会予稿集』 pp172-177
- (10) 池原明子 (2011) 「Peer Learning による、かなの指導」-0 初級学習者の仮名習得過程に与える Peer Learning の学習効果- 世界日本語教育大会論文集 (天津)
- (11) 池原明子 (2012) 「0 初級学習者の Peer Learning による仮名の指導の学習効果」『経大論集』 41 号 Vol 2

参考資料 1

Survey (Basic 漢字)

Name :

- 1 Have you enjoyed learning Basic 漢字 (かんじ) using the Peer Learning Method ?
 a. yes
 b. no
 Comments :
- 2 Is the Peer Learning Method a good learning method for learning Kanji 漢字 ?
 a. yes
 b. no
 Comments :
- 3 Is the Peer Learning Method more useful than traditional teaching methods for learning Kanji (漢字) ?
 a. yes
 b. no
 Comments :
- 4 Does learning writing, reading , listening, pronunciation or vocabulary with a partner, help you learn Kanji 漢字 ?
 a. yes
 b. no
 Comments :
- 5 Can a student help a partner to learn Kanji 漢字 and vice versa ?
 a. yes
 b. no
 If your answer is 'yes' how did it help you ?
 If your answer is 'no' please explain.

6 Does the Peer Learning Method significantly help each partner to learn Kanji, 漢字 ?

- a. yes
- b. no

If your answer is 'yes' please explain.

If your answer is 'no' please explain.

7 Does the Peer Learning Method help you learn Kanji 漢字 ?

- a. yes
- b. no

If your answer is 'yes' which area benefited most ?

1 writing 2 reading 3 stroke order 4 structure 5 pronunciation

If your answer is 'no' which area benefited least ?

1 writing 2 reading 3 stroke order 4 structure 5 pronunciation

8 If you have any comments, opinions or suggestions about learning Kanji 漢字 using the Peer Learning Method, please explain.

参考資料 2

Survey (Basic 漢字)

Name :

1 あなたは漢字が好きですか。

- a. はい
- b. いいえ

reason : (その理由)

2 漢字を知っていると役に立つ (useful) と思いますか。

- a. はい
- b. いいえ

reason : (その理由)

3 もっと漢字を勉強したいですか。

- a. はい
- b. いいえ

reason : (その理由)

- 4 漢字の勉強はどうしていますか。
- 5 漢字はどうやったら上手になるとおもいますか。
- 6 家で漢字の勉強はどうしていますか。
- 7 漢字の勉強はいつしますか。 どのくらいしますか。
いつ：
どのくらい：
- 8 家での漢字の勉強とクラスでの漢字の勉強とどちらが好きですか。
a. 家で
b. クラスで
c. りょうほう
reason：(その理由)
- 9 クラスでは Peer Learning Method で友だちとたすけあって勉強していますがどうですか。
漢字の勉強にいい方法（やり方）だとおもいますか。
どんなところがいいですか：
どんなところがよくないですか。
どうしたらもっとよくなると思いますか。
- 10 漢字のテストはどうですか。
a. いい
b. よくない
reason：(その理由)